

2020 年度 決算について

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と学生の学修機会の確保とを両立する観点から、学生がオンデマンド型講義を受講するための環境整備を目的とした緊急支援金の給付や感染症予防対策に向けた物品の確保、収録講義配信のための取組みにより教育研究経費、施設、設備関係の支出が予算よりも増加しました。

一方、収入面においては、遠隔授業活用推進事業や新型コロナウイルス感染症検査機関等設備整備事業、大学における学生支援強化特別対策事業等の補助金等に積極的に申請した結果、予算よりも増収となっています。

○ 資金収支計算書

(1)収入の部

学生生徒等納付金収入は、4,262,691 千円と予算額を 30,791 千円上回りました。手数料収入は、志願者数の減少により予算額よりも 6,892 千円減少しました。また、補助金収入は 576,556 千円となり、私立大学等経常費補助金や遠隔事業活用推進事業、新型コロナウイルス関連の補助金が交付されています。

資産売却収入は国債の満期償還分、委託運用商品の売却分です。

その他の収入では、委託運用商品を購入するための資産の取崩しや、資産の組換えを行ったことにより、予算よりも大幅に増加しています。

(2)支出の部

人件費は、僅かに予算額を下回り、1,966,435 千円となりました。教育研究経費は、緊急支援金の給付等で予算額を上回り 1,655,546 千円となりました。

管理経費支出は予算額を下回り 339,063 千円となりました。施設関係支出では、学術系無線 LAN の追加整備、愛学館の自動ドアの設置工事、グラウンドの防球ネットの取り換え工事等で、予算額を上回り 179,758 千円となりました。設備関係支出では、予算額を 59,076 千円上回り 375,376 千円となっています。資産運用支出は、組入計画に基づく組入や、委託運用商品の購入、国債の満期償還分の繰入、資産の組換えなどで、8,321,789 千円となりました。以上により、翌年度繰越支払資金は、3,584,932 千円となりました。

○ 事業活動収支計算書

(1)教育活動収支

「教育活動収支」は、学校法人の本業である教育研究事業の収支を表しています。学生生徒等納付金収入 (4,262,691 千円) の経常収入 (5,096,650 千円) に占める割合 (学生生徒等納付金比率) は 83.6% で、補助金収入 (447,531 千円) の経常収入に占める割合 8.8% (経常費補助金比率) と合わせると 92.4% となり、本学の収入の大部分を占めています。

教育活動収支における事業活動支出においては、人件費 (1,953,624 千円) の経常収入に占める割合 (人件費比率) は 38.3% です。また、教育研究経費は 2,316,294 千円となり、経常収入に占める割合 (教育研究経費比率) は 45.4% となりました。

(2)教育活動外収支

「教育活動外収支」は、経常的な収支のうち教育活動以外の収支で主に財務活動の収支を表しています。

本学は、債券、投資信託、定期預金等の受取利息・配当金収入のみで、教育活動外収支差額は143,821千円となりました。経常収支差額（教育活動収支差額+教育活動外収支差額）は395,295千円となり、経常収支差額比率（経常収入に占める経常収支差額の割合）は7.8%となりました。

(3)特別収支

「特別収支」（特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な収支）の特別収支差額（特別収入－特別支出）は148,224千円となりました。

(4)事業活動収支差額比率

事業活動収入は、5,274,252千円、事業活動支出4,730,732千円となり、基本金組入前当年度収支差額は、543,520千円、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）は10.3%となりました。

(5)基本金の組入れと翌年度繰越収支差額

基本金は、第1号基本金に236,424千円、第2号基本金には、教育研究総合センター等の整備費として507,590千円を組入れました。また、第3号基本金には奨学基金に10,079千円、第4号基本金には7,000千円を組入れるなど、計761,095千円の基本金組入となりました。この結果、当年度収支差額は△217,575千円となり、前年度からの収入超過額960,372千円を加え、翌年度繰越収支差額は742,797千円となりました。

○貸借対照表

(1)資産の部

有形固定資産は、設備整備や教育研究用機器備品の購入よりも、減価償却額が多かったため、前年比213,063千円減の13,114,305千円、特定資産は、第2号基本金引当特定資産の計画的組入等により、前年比912,788千円増の20,509,668千円となりました。また、流動資産は、前年比49,044千円増の3,840,427千円となり、その結果、資産の部合計は、前年比744,542千円増の37,599,784千円となりました。

(2)負債の部

負債のうち、固定負債934,502千円は長期末払金、退職給与引当金を計上しています。流動負債991,498千円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,926,000千円となりました。

(3)純資産の部

基本金761,095千円を組入れ、基本金の合計は34,930,985千円となりました。繰越収支差額は742,797千円となり、その結果、純資産の部合計は前年比543,520千円増の35,673,783千円となりました。

○財務状況の分析

事業活動収支決算をみると、遠隔授業活用推進事業や新型コロナウイルス感染症検査機関等設備整備事業、大学における学生支援強化特別対策事業等の補助金、また授業料等減免費の交付等により、収入全体では予算に対し、約107百万円の増加となっています。一方、支出面においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急支援金の給付や収録講義配信のための取組等の経費が増加したものの、光熱水費や旅費に係る経費の減少、各種事業の中止等により、予算に比べ103百万円の減少となりました。

○財務上の課題、今後の方針・対応方策

本学は、2004年から株式会社格付投資情報センター（R&I）の格付「AA－（ダブルAマイナス）」を更新しており、2020年度は教育力の高さや就職実績に加え、コロナ禍による環境変化への迅速かつ柔軟な対応により、継続的な修学環境を提供できていること、また、収支が良好で財務も健全であるとの評価を受けています。

さらに、日本私立学校振興・共済事業団が公表している「経営判断指標」に基づく分析でも、本学の経営状態は正常状態にあり、安定していると言えます。

今後、「京薬ブランド」の確立^注を目指し、「大学の価値を高める」ために必要な原資や設備投資を安定的に確保することが重要な課題となることから、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）が10％程度の水準を維持することを目標としています。

注）創設15年を迎えた6年制薬学教育を更に進化させるため、“Science（科学）”、“Art（技術）”、“Humanity（人間性）”を基盤とする教育・研究システムの構築と展開を踏まえた、「卓越した科学的思考を基盤とする自発的探究心の深化」と、「医療・薬学の枠を超えて多領域で活躍する人材の育成」へ、すなわち社会の変化に先んじて、薬学の発展を先導するための進化のこと